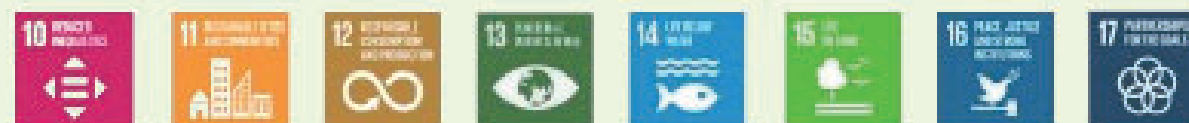


日本人 x 外国人 多文化共生のまちづくりを伝える

ヨーピア

269号
2024年1月



-Contents-

南永田団地の空山鳥語を目指して～みなみ市民活動・多文化共生ラウンジの取り組み

国際平和・SDGs 出前講座・校外学習

YOKEの事業を支える 総務課庶務担当と経理担当の紹介

横浜市多文化共生総合相談センター 相談の現場から



公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE）

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5階

TEL 045-222-1171（代表）FAX 045-222-1187

E-mail yoke@yoke.or.jp

URL <https://www.yokeweb.com>

南永田団地の

空山鳥語

を目指して

～「国際交流イベント」を通じて～

みなみ市民活動・多文共生ラウンジの取り組み

みなさん、横浜市南区にある「南永田団地」のことをご存知ですか？

近年、この南永田団地に住む外国人の数は、右肩上がりが増え続けています。そして、その増加に伴い、日本人住民とのコミュニケーションの促進やお互いの生活習慣に関する理解と協力がますます重要になってきています。

このような背景のもと、団地の管理を担っている株式会社 UR コミュニティ横浜住まいセンターは、NPO 法人永田みなみ台ほととサライ（コミュニティカフェ「サロンほととサライ」を運営）と地区の社会福祉協議会へ呼びかけ、3者が主催となり、2023年9月24日（日）に団地住民同士のつながりづくりを目的とした「国際交流イベント」を開催しました。みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ（以下、みなみラウンジ）はこちらのイベントに協力しました。

実は、このイベントは今年で3回目となります。第1回は今から2年半前の2021年3月に開催しましたが、私の目には今年の方が明らかに「団地住民同士のコミュニケーションが増えている」と映りました。イベント当日、みなみラウンジはインド料理、モンゴル馬頭琴演奏、タイ伝統舞踊体験の講師を紹介し、250名を超える住民が参加してくれました。



コミュニティカフェサロン「ほととサライ」でカレーライスと一緒に作りました。

インド料理を担当したのは3街区に住むインド出身の2名で、本場インドのスパイシー味のほか、日本人の口に合うようにマイルド味を準備してくれました。結果、準備した60食はあっという間に完売となる盛況ぶりでした。

モンゴル馬頭琴演奏では、初めて馬頭琴演奏を聴く日本人が会場の大半を占めましたが、自国の馬頭琴演奏を聴こうとモンゴル出身者も数名来場していました。彼らは母国のポピュラー音楽を異国の地日本で聴けたことにとっても感動していました。

演奏者の計らいで日本の名曲「ふるさと」を馬頭琴で奏でたとき、会場の雰囲気は最高潮に達し、なかには涙を流しながら歌っている方もおられました。

モンゴル馬頭琴演奏の様子



タイ伝統舞踊体験は、穏やかで、優雅な時間となりました。皆で大きな輪をつくり、講師と一緒に手と体を動かし国籍・性別の枠を超え「指先の芸術」を楽しみました。



タイ伝統舞踊体験を楽しむ南永田団地のみなさん

当日、このイベントに参加した外国人住民に出身地を聞いたところ、バングラデシュ、インド、ネパール、モンゴル、フィリピン、ウズベキスタン、セネガルなどさまざまでした。

今年のイベントの特徴は、前回より明らかに外国人参加者が増えたことと、日本人が外国人参加者に声をかける場面が多数見られたことです。

前回のイベントは「団地に住んでいる外国人と日本人が顔見知りになり、日常生活で挨拶するきっかけ作りの場」でした。今回は「一緒にこの団地の未来を作っていく場」だったと、みなさんからそのような意気込みが伝わってきたイベントでした。



南永田団地で暮らす日本人のみなさんと歓談



くうざんひと みじんご ひびき
「空山人を見ず、ただ人語の響きを聞く」

これは中国唐時代の王維の詩です。深山幽谷の中、さまざまな鳥がさえずる優美な情景を描いています。緑いっぱいに囲まれたこの南永田団地も、さまざまな鳥がさえずる中、日本語のみならず外国語も響く団地であって、住民同士が仲良く過ごしていけたらと願ってやみません。

みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ 王 慶紅



外国につながるお子さんもタイ舞踊を体験

みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ

みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ（通称：みなみラウンジ）は、市民活動支援センターと国際交流ラウンジの機能を持った横浜市内唯一の施設です。当ラウンジは市民活動支援センターとして、市民活動に関する相談・情報提供や、市民活動団体の活動拠点として場の提供をするとともに、国際交流ラウンジとして、外国人市民のための生活相談や情報提供、多文化共生ボランティアの登録・派遣・活動支援などを行っています。

住所 〒232-0024 横浜市内南区浦舟町 3-46 浦舟複合福祉施設 10 階
電話 045-232-9544（日本語受付）、045-242-0888（外国語受付）
開館日 休館日を除く毎日（祝日も開館）9:00～17:00
休館日 毎月第3月曜日および12月29日～1月3日

「国際平和・SDGs 出前講座・校外学習」とは？

「国際平和・SDGs 出前講座・校外学習」では、世界が平和で安心して暮らすことができる未来の地球を「SDGs」を通じて横浜の小学生のみなさんが考える講座を開催しています。

また、横浜国際協力センターにある国際機関の取り組みを知り、子どもたちが自分事として国際平和やSDGsを具体的に考えます。



国際平和・SDGs 出前講座・校外学習

2023年9月から12月にかけて
横浜市立小学校等40校、約3,000人の子どもたちが
横浜国際協力センターを訪れ
国際平和やSDGsについて一緒に考えました。

3か月間で40校・
約3,000人の小学生が参加

2023年度当初は、YOKEスタッフが小学校に訪問して講座を行う「出前講座」型が主流でした。新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後はガラリーと変わり、小学生のみなさんが横浜みなとみらいにある横浜国際協力センターを訪問して学ぶ「校外学習」型が主流になりました。そのため、9月～12月の3か月間で2022年度の総受講者数の約3倍となる40校、約3,000人の子どもたちがYOKEや国際機関を訪問し、にぎやかな日が続きました。また、久しぶりの課外活動に子どもたちも目を輝かせて楽しく学んでいました。



「直接感じる、直接見る、直接聞く」

一方で、世界情勢は日々深刻な状況が続いており、世界平和について誰もが真剣に考えなければならない時代に突入しています。子どもたちも例外ではありません。

受講中、飢餓や戦争に関するニュースを心配しながら話している子どもたちの姿を目の前で見ると、私たち大人は今すぐ何ができるのだろうかと思いが痛むこともあります。横浜国際協力センターの見学でウクライナ交流カフェ「ドゥルーズィ」を訪れた子どもたちが、ウクライナスタッフと会話をする姿や、質問する姿が見られました。アンケートでは、「『直接感じ、直接見て、直接聞く』ことで今まで以上に自分事として国際平和を考えるようになった」との回答が多く集まりました。



私たちの生活につながっている 「国際平和・SDGs」 担当者の願い

私がこの講座を担当して1年が経過する中で、予想外のことがありました。それは、毎日給食を食べ、家で食事ができることが地球では「当たり前」ではないことに多くの子どもたちが驚いていたことです。ウクライナの国旗の下半分の黄色は「小麦」を表しています。私たちが食べているパンも、世界平和があってこそ。全てのことが世界の国と密接にかかわっています。そしてSDGs各項目も密接に関連しています。

国連の説明内容を小学生のみなさんがより関心をもって理解することができるよう「国際平和・SDGs 出前講座・校外学習」のプログラムを検討し、開催しています。普段の行動をSDGsの行動としてとらえ、地球の未来と平和に心を向けて欲しいと願いつつ、日々改善しながら話をしています。

グローバル人材育成支援課 紙谷 元己



2023年度国際平和・SDGs校外学習 実施期間 2023年9月～12月／参加校・人数 40校・約3,000人／内容 横浜国際協力センター入居機関の見学、講義、動画視聴（所要時間計120分）
参加校（横浜市立）入船小学校、さつきが丘小学校、あざみの第一小学校、桂小学校、永谷小学校、芹が谷南小学校、神橋小学校、羽沢小学校、六つ川台小学校、榎坂小学校、二つ橋小学校、ハートフルルームつぎの丘、野庭すずかけ小学校、元石川小学校、四季の森小学校、新羽小学校、南小学校、朝比奈小学校、洋光台第三小学校、藤塚小学校、山王台小学校、岩崎小学校、義務教育学校霧が丘学園小学部、川島小学校、小雀小学校、上白根小学校、滝瀬小学校、相沢小学校（5年）（6年）、東中田小学校、万騎が原小学校、舞岡小学校、平沼小学校、上末古小学校、笠間小学校、立野小学校、桂台小学校、師岡小学校、本郷台小学校、東品濃小学校（順位不同）

YOKEでは外国人も暮らしやすく社会参画しやすいまちづくりに向け、さまざまな事業を行っています。私たちが円滑に事業を行っていくうえで、規則や遵守事項の取り決め、オフィス環境の整備等組織の基盤を作る庶務担当と日々の出入金や予算が適正に使用されているかをチェックする経理担当の業務は大変重要であり、総務課の業務が常にYOKEの各事業を支えていると言っても過言ではありません。2023年12月現在、総務課では5名のスタッフが勤務しています。今回、総務課庶務担当の中間と経理担当の長谷川が担当業務と日々心に留めていることなどについて紹介します。

YOKEの事業を支える 総務課庶務担当と経理担当の紹介

みなさま、こんにちは。総務課の経理担当として働いている長谷川です。現在は、YOKE 内各部署と受託運営施設から上がってくる起案の承認、伝票のチェック・入力、出納、専任職員の給与計算、予算データの配信等を主に担当しています。

私は長らく中小企業支援に従事していましたが、公益法人会計は企業会計とは異なる部分が多いため、実務を通して学ぶ毎日です。経理のみが使用するシステムも複数あるため、まだまだ覚えることはたくさんありますが、日々の業務に取り組む中で少しずつ慣れてきました。

仕事をする上では、期日管理に留意しています。特に支払いに関しては、月末の他に月半ばのものや突発的なものもあるため、漏れないよう細心の注意を払っています。また、お金に関わる仕事に携わっていることから、「1円多くても少なくともいけない」ということを肝に銘じて、業務に当たっています。

経理の仕事は細やかさを求められ、インボイス制度への対応等ここ最近で大きく変化していますが、YOKEの事業をバックオフィスからしっかりと支えられるよう、今後も邁進していきたいです。

総務課で庶務を担当している中間です。担当業務は、横浜市や外部機関からの調査書の回答や、理事会の準備などの財団運営業務全般、健康診断や労災手続きなどの福利厚生業務、郵便物の仕分けや備品の管理などです。入職 2 年目ですが、特に財団運営に関する業務は広い知識と協会規程の十分な理解が必要であるため、先輩や同僚に助言をもらいながら進めています。

文書主義の現場であり、協会の意思決定の経緯やこれまでの実績などさまざまな文書が保管されていますので、過去の事例を参照することができる反面、膨大な文書の中から必要なものを選別したり情報を更新したりする作業が必要であると日々感じており、これが庶務の主要な業務の一つであると考えています。

労務関連業務で、執務環境改善の一環として事務所の什器を取り替えたときは、業者選定や当日の搬入の段取りを担当しました。実は過去に少し、建設業界にいたことがあるのですが、ロッカーの交換をしたときに業者の方から「新しいロッカーは隣のとツラになります」と言われ、現場の言葉を懐かしく感じました。どんな仕事もつながっているのだと思います。仕事は選ばず取り組みたいと思っています。

横浜市多文化共生総合相談センター 相談の現場から



親戚がフィリピンから来日しました。英語とタガログ語を話せますが、日本語はできません。これから日本で暮らしていくので、日本語をしっかりと勉強したいと言っています。

公的な場所で、安価で自宅から通いやすいところで勉強できる場所を教えてください。



学校に通って毎日勉強したい場合、横浜にはいくつも日本語学校がありますが、学費がかかります。できるだけ費用を抑えて勉強したいというご希望ですね。

横浜市内では、国際交流ラウンジや公共施設などで、多くの日本語教室が開催されています。教室の情報は、こちらで見ることができます。

日本語・学習支援 教室データベース（横浜）
<https://yokeweb.jp/>



また YOKE でも、日本語教室を行うとともに、市内の日本語教室について情報提供をしています。ホームページをご覧ください。
https://yokohama-nihongo.com/learn-japanese/ynsc_japaneseclass

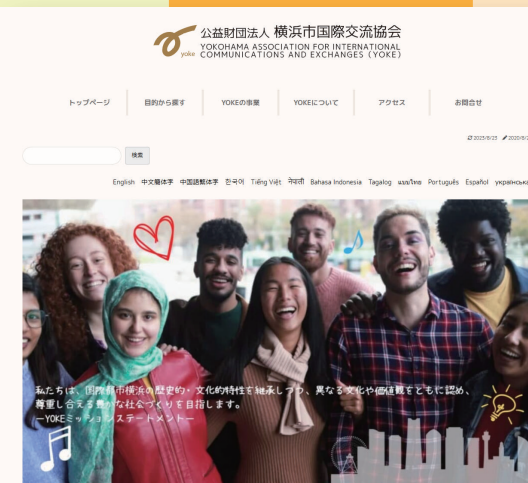


横浜市多文化共生総合相談センターでは、外国人のみなさんからの質問に 12 言語で対応しています。お気軽にご連絡ください。 電話 045-222-1209
<https://www.yokoinfo.jp/>



YOKE ウェブサイトをご覧ください！

<https://www.yokeweb.com/>



横浜市国際交流協会（YOKE）のウェブサイトでは、YOKE が開催する研修会やイベントの案内を随時掲載しています。日本語学習支援に関する情報なども掲載していますので、是非ご覧ください。

寄付をいただきました

国際ソロプチミスト横浜西 様

10 月 19 日、長年にわたり当協会の活動をご支援いただいている団体：国際ソロプチミスト横浜西の足立様が来所され、鈴木事務局長に寄付金 30,000 円が手渡されました。いただいた寄付金は、外国人子ども教育支援のために有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

